

令和6年度 シラバス

教科	国語	科目	論理国語	学年 学科 類型	3年 商業科 II型
単位数	2	教科書	精選 論理国語(三省堂)		
副教材等	精選 論理国語 学習課題ノート(三省堂)				

学習の目標	<p>1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしましょう。</p> <p>2 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしましょう。</p> <p>3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養いましょう。</p>
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を収集し活用しながら他者との対話を通して、深い理解を目指します。 ・教材の解釈や報告、発表などの言語活動を積極的に行うことを通して、自己の思いや考えを深めたり広げたりします。 ・言葉を通して他者や社会に関わり、読書に親しむことで自己の向上を目指します。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報社会」を生きるII ・言葉を見つめるII ・共生社会を創造する 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会を生きるためのメディアリテラシーについて自分の考えをまとめる活動を通して、論理的、批判的に考える力を伸ばします。 ・社会的視点から言葉について考え、言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させる態度を養います。 ・共生社会の実現に向けた課題について考え、発表などの言語活動を通して、自分の思いや考えを広げたり深めたりします。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・経済について考える ・国際社会を考える ・心と向き合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済との関わりから社会的課題について考え、必要な情報を収集し活用しながら課題解決の方策をまとめ、創造的に考える力を養います。 ・これからの国際社会の課題について資料を読んで考え、他者との対話を通して深い理解を目指します。 ・心について様々な視点から考え、考えたことや発見したことを文章にまとめる活動を通して、自分の思いや考えを広げたり深めたりします。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・「リスク社会」を生きる ・近代・現代社会を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・「リスク社会」について、資料を用いて考察する活動を通して、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けます。 ・現代社会を歴史の中で捉え直すことで、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	「書くこと」、「読むこと」の2領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和6年度 シラバス

教科	国語	科目	国語表現	学年 学科 類型	3年 商業科 II型
単位数	2	教科書	国語表現(大修館)		
副教材等	国語表現 基礎演習ノート(大修館)				

学習の目標	<p>1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしましょう。</p> <p>2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしましょう。</p> <p>3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養いましょう。</p>
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を収集し活用しながら他者との対話を通して、深い理解を目指します。 ・教材の解釈や報告、発表などの言語活動を積極的に行うことを通して、自己の思いや考えを深めたり広げたりします。 ・言葉を通して他者や社会に関わり、読書に親しむことで自己の向上を目指します。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・書いて伝える ・小論文 ・自己PRと面接 	<ul style="list-style-type: none"> ・時と場合に応じた言葉と表記を使い分ける活動を通して、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けます。 ・小論文を書く活動を通して、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにします。 ・効果的な自己PRを考え、面接練習を通して、実社会における他者との関わりの中で伝え合う力を高めます。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・声とコミュニケーション ・メディアを駆使する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット社会におけるコミュニケーションツールを使いこなし、コミュニケーションを豊かにします。 ・様々なメディアと情報に触れ、活用方法を考える活動を通して、論理的に考える力や深く共感する力を伸ばします。 ・朗読劇を通して、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようとする態度を養います。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・表現を楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションやスピーチなどを通して、全体の構造を意識して説明するとともに間の大切さを学びます。 ・パンフレット作りやエッセイの創作を通して、必要な国語の知識や技能を身に付けます。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の2領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和6年度 シラバス

教科	地理歴史	科目	地理総合	学年 学科 類型	3年 商業科 II型
単位数	2	教科書	高等学校 新地理総合(帝国書院)・新詳高等地図(帝国書院)		
副教材等	地理総合ワークブック2024(愛媛県高教研地理歴史・公民部会地理部門)、高等学校 新地理総合ノート(帝国書院)				

学習の目標	社会事象の地理的な見方・考え方を身に付け、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付けます。
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を基本教材としつつ、資料豊富な副教材も活用しながら学習内容の定着を図ります。 ・地図帳や作業地図などを活用して、自然環境、産業、人々の生活・文化、地球的課題などの特徴や分布状況を空間的な広がりの中で捉えていきましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学 期	第1部 第1章 地図と地理情報システム 第2章 グローバル化する世界 第2部 第1章 生活文化の多様性と国際理解	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある様々な地図、GISやGPSの仕組み、情報を地図化する方法を学習します。 ・世界の国々が貿易、交通、観光などによってどのように結び付いているかを学習します。 ・人々の生活と地形、気候、宗教等の関連性を理解し、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性について学習します。
2 学 期	第1章 生活文化の多様性と国際理解(2) 第2章 地球的課題と国際協力	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の生活と地形、気候、宗教等の関連性を理解し、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性について学習します。 ・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題等を基に、地球的課題の解決について考えます。
3 学 期	第3部 持続可能な地域づくり 第1章 自然環境と防災 第2章 地域調査	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の特色と自然災害の関連性を理解し、地域社会で起こりうる自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	地理に関わる事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする事の大切さについての自覚などを深めている。
評価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト ・レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題、レポート ・発表 ・パフォーマンス評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・ノート ・ポートフォリオ評価

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和6年度 シラバス

教科	公 民	科 目	政治経済	学年 学科 類型	3年 商業科Ⅱ型
単位数	3	教科書	政治・経済 POLITICS & ECONOMY (数研出版)		
副教材等	政治・経済資料 2024 (東京法令出版)				

学習の目標	1 現代の日本の政治・経済及び国際関係について関心を高め、政治・経済に関する基本的な知識や見方・考え方を身に付けます。 2 政治や経済、国際関係などに関する諸課題を主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民としての態度を育みます。
学習の方法	・教科書を基本教材としつつ、資料豊富な副教材も活用します。 ・授業で学んだ範囲をその日のうちに復習し、理解しながら学習を進めましょう。 ・定期的に内容確認の小テストを実施し、学習内容の定着を図ります。

学 期	単 元	学習活動とねらい
1 学 期	第1章 現代の政治 第1節 民主政治の基本原則と展開 第2節 日本国憲法と基本的人権 第3節 日本の政治機構 第4節 政治参加と民主政治の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治の基本原則を学び、民主政治の本質を理解します。 ・日本国憲法における基本的人権の尊重、国民主権、政治機構について学習し、民主主義の本質を理解します。 ・日本の政治機構について学習し、現代日本の政治について理解を深めるとともに、主権者としての政治参加の在り方を考察します。 ・学習プリント、小テスト、定期考査
2 学 期	第2章 現代の経済 第1節 経済活動の意義と経済体制 第2節 現代経済のしくみ 第3節 日本経済と福祉の向上 第3章 現代の国際社会 第1節 国際政治の動向 第2節 国際経済の動向 第3節 国際社会の課題と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・資本主義経済と社会主義経済の発展と変容、経済体制について学び、現代の日本経済及び世界経済について理解します。 ・国民経済における市場経済の機能や限界、財政や金融機関の役割などについて理解し、経済社会の在り方について考察します。 ・戦後の日本経済を学び、中小企業や農業、労使関係、少子高齢社会についての課題を考察します。 ・国際社会の変遷や国際法、国際機構について学習し、国際政治の特質について理解し、国際平和のための日本の役割を考察します。 ・貿易の意義や為替相場、国際収支のしくみについて理解し、国際協調の必要性や国際経済における日本の役割を考察します。 ・学習プリント、小テスト、定期考査
3 学 期	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習を行い、問題の傾向に慣れるようにします。 ・学習プリント、小テスト

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養っている。	現代社会に生きる人間としての在り方・生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めている。
評 価 方 法	・定期考査、小テスト ・パフォーマンス評価 ・課題	・定期考査、レポート ・ポートフォリオ評価 ・課題	・出席状況、行動の観察 ・パフォーマンス評価 ・課題

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。学年末考査は行わない。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和6年度 シラバス

教科	数学	科目	数学探究A	学年 学科 類型	3年 商業科Ⅱ型
単位数	3	教科書	数学探究A（学校作成教科書）		
副教材等	チャート式 解法と演習 基本例題完成ノート数学Ⅰ【数と式、集合と命題】、数学Ⅰ【2次関数、図形と計量、データの分析】、数学A【場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動】				

学習の目標	数学の基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間とのかかわりや、社会生活において数学が果たしている役割について理解し、数学に対する興味・関心を高めるとともに、数学を活用していく能力を身に付けます。
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに習った内容を復習し、基礎・基本的事項を定着させてください。 ・就職試験に向けて過去問題を解き、より実践的な学習を行ってください。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	【1学期中間】 [数学Ⅰ] 数と式 集合と命題 2次関数 【1学期期末】 図形と計量 データの分析	<ul style="list-style-type: none"> ・式の展開、因数分解について演習を行います。 ・集合の要素の個数、命題の真偽について演習を行います。 ・2次関数とグラフについて演習を行います。 ・三角比について演習を行います。 ・データの読み取り方、箱ひげ図について演習を行います。
2 学期	【2学期中間】 [数学A] 場合の数と確率 【2学期期末】 図形の性質 数学と人間の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・順列、組合せ、条件付き確率について演習を行います。 ・三角形と円の図形的性質について演習を行います。 ・整数問題、ユークリッドの互除法について演習を行います。
3 学期	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野の融合的な演習を行います。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数や式を多面的にみて目的に応じて適切に変形したり、関数関係に着目し事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察したり、適切な手法を選択し分析を行ったり、事象の起こりやすさを判断したり、事象に数学の構造を見いだし数理的に考察している。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の糧を振り返って考察を深めたり、評価・改善している。
評価 方 法	定期考査、単元テスト、課題プリント、ノート	定期考査、単元テスト、課題プリント、ノート	定期考査、単元テスト、課題プリント、ノート

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和6年度 シラバス

教科	理科	科目	地学基礎	学年 学科 類型	3年 商業科 II型
単位数	2	教科書	高等学校 地学基礎(啓林館)		
副教材等	Navi&トレーニング 地学基礎 新訂版 (啓林館)				

学習の目標	1 身の回りにある自然の事物の観察や、発生する自然現象について考察します。 2 地学を通して、身の回りの自然現象を科学的に思考する態度や自然環境の保全に寄与する姿勢を身に付けます。
学習の方法	・授業中は教科書の内容だけでなく、資料集に掲載されている図や表から、頭の中で地学現象のメカニズムを3次元でイメージすることが大切です。 ・家庭学習では副教材を用いて基礎知識を定着させ、授業内容をさらに理解できるように心掛けてください。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1部 固体地球とその活動 第1章 地球 第2章 活動する地球 第2部 大気と海洋 第1章 大気の構造 第2章 太陽放射と大気・海水の運動 第3章 日本の天気	<ul style="list-style-type: none"> ・固体地球の大きさや内部構造などについて、観測・計測データを用いて、考察し、理解を深めます。 ・地球表面で生じる地震活動や火山活動を、地球内部での対流運動やプレートテクトニクスと関連付けて学習し、理解を深めます。また、火成岩の分類について、実験を交えて学習します。 ・大気圏の構造や水と気象現象のかかわりについて、実験を交えながら学習することによって理解を深めます。 ・地球規模で生じる気象現象について、地球のエネルギー収支を踏まえて学習することによって、理解を深めます。 ・日本の天気について、これまで学習した水と気象現象の関わりやエネルギー収支を交えながら学習することで理解を深めます。
2 学期	第3部 移り変わる地球 第1章 地球の誕生 第2章 地球と生命の進化 第3章 地球史の読み方 第4部 自然との共生	<ul style="list-style-type: none"> ・宇宙や地球の誕生について、時間的、空間的スケールの違いを念頭に置きながら学習し、理解を深めます。 ・地上の環境の変化や生物の進化について、地層中の堆積構造や化石などから推定する思考力を養うとともに、先史時代と現在のつながりを理解します。 ・これまで学習した内容を念頭に置き、これからの自分の生活において、学習した内容をどのように活用していくのかを考えます。
3 学期	総合演習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容の復習に取り組みます。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	地学に関わる諸現象や形成される地形や地質などについて、複数の視点から内容を捉え、理解するとともに、諸資料を効果的に調べたり、実験を行ったりする技能を身に付けている。	地学に関わる諸現象や形成される地形や地質などについて、その現象の原理や地形・地質などの成因を、複数の視点から理解・考察したり、実験の結果を他者が理解しやすいように適切にまとめ、表現することができる。	地学に関わる諸現象や形成される地形や地質などについて、自身の生活に生かし、活用しようとする態度を身に付けている。また、学習活動全般において、課題を確実に提出したり、教員の指示をよく聞いて活動することができる。
評価 方 法	定期考査 パフォーマンス評価 課題	定期考査 パフォーマンス評価 課題	定期考査 パフォーマンス評価 課題

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和6年度 シラバス

教科	理 数	科目	体 育	学年 学科 類型	3年 商業科
単位数	3	教科書	現代高等保健体育 改訂版 (大修館)		
副教材等					

学習の目標	<p>1 各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができますようにします。</p> <p>2 明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養い、健康・安全・運動についての課題を主体的に解決する意欲や能力を育てます。</p>
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動、球技・武道(選択)、ダンス・陸上競技(選択)を通して、自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てます。 ・体育理論では、豊かなスポーツライフの設計の仕方について学びます。

学 期	単 元	学習活動とねらい
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・選択1 (球技【ソフトボール・バレーボール・テニス・バドミントン】・武道) ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動を通して体を動かすことの楽しさや心地よさを味わい、心と体が互いに影響し変化することを学びます。 ・球技では、多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方などを理解します。仲間と連携しゲームを展開し、生涯にわたって運動を豊かに継続するための意欲を育みます。 ・武道では、相手を尊重するとともに、礼法などの伝統的な行動を大切に、得意技を用いた攻防が展開できるようにします。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解します。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることを目指します。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・ダンス ・選択1 (球技【ソフトボール・バレーボール・テニス・バドミントン】・武道) ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力を高める運動を行います。その際、自己のねらいに応じて、健康の保持増進や調和の取れた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立てて取り組むようにします。 ・宇和島東高校で受け継がれている動きを表現します。テーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で対極の動きや空間の使い方を変化をつけて即興的に表現することで、イメージを具現化した作品にします。 ・球技では、多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方などを理解します。仲間と連携しゲームを展開し、生涯にわたって運動を豊かに継続するための意欲を育みます。 ・武道では、相手を尊重するとともに、礼法などの伝統的な行動を大切に、得意技を用いた攻防が展開できるようにします。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることを目指します。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について学習を主体的に取り組むようにします。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・選択1 (球技【ソフトボール・バレーボール・テニス・バドミントン】・武道) 	<ul style="list-style-type: none"> ・球技では、多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方などを理解します。仲間と連携しゲームを展開し、生涯にわたって運動を豊かに継続するための意欲を育みます。 ・武道では、相手を尊重するとともに、礼法などの伝統的な行動を大切に、得意技を用いた攻防が展開できるようにします。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準	<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。</p>	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。</p>
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス評価 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・行動の観察

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和6年度 シラバス

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ	学年 学科 類型	2年 商業科 Ⅱ型
単位数	3	教科書	ELEMENT English Communication Ⅱ (啓林館)		
副教材等	Vision Quest総合英語 Ultimate 2nd Edition、 New Vision Quest English Grammar 47 WORKBOOK、英単語ターゲット1900、Next Stage				

学習の目標	1 英語を理解し英語で表現しようとする、コミュニケーションへの積極的な態度を養います。 2 英語を読んだり聞いたりしたことに対する自分の感想をまとまりのある英文で表現できる理解力と表現力を習得します。 3 基本的な構文や文法、語彙を習得します。CEFRのB1以上の取得を目標とします。
学習の方法	・授業は、教科書の文章を読んでおくことが前提になります。授業中の言語活動に参加できるように、音読と大まかな内容把握をした上で授業に臨みましょう。自分の力で取り組む習慣を継続しましょう。 ・英語を読んだり聞いたりしたときや英語で自分の意見を表現するときに、分からないことがあれば、辞書や文法書を利用して、自分で調べるようにしましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	Lesson 6 IT and Life Further Reading 2 Miss Moore Thought Otherwise	<ul style="list-style-type: none"> ・A Long Way Homeを読んで概要や詳細を理解し、行間を読みま す。 ・倒置、関係副詞の非限定用法を用いた文の構造を理解します。 ・子ども図書館の発展に尽力した女性についての物語文を読み、概 要や詳細を理解します。 ・物語文を読み、その文体やリズムを楽しみます。
2 学期	Lesson 7 Advances in Medical Technology Lesson 8 A Tiny Step, a Big Impact	<ul style="list-style-type: none"> ・Putting iPS Cells into Practiceを読んで概要や詳細を理解し、情報 を事実と意見に整理します。 ・that節をとる名詞、未来進行形を用いた文の構造を理解します。 ・How We Got to Now with Glassを読んで概要や詳細を理解し、情 報を事実と意見に整理します。 ・whatを用いた強調、複合関係副詞を用いた文の構造を理解しま す。
3 学期	Further Reading 3 Moufflon-The Dog of Florence	<ul style="list-style-type: none"> ・少年と犬の絆と家族の愛情についての物語文を読み、概要や詳細 を理解します。 ・場面に応じて用いられる特徴的な描写や文体から、英文の奥深さ を理解します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価 方 法	定期考査、パフォーマンステスト、小テスト	定期考査、パフォーマンステスト、レポート課題	言語活動への参加状況、パフォーマンステスト

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和6年度 シラバス

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅱ	学年 学科 類型	3年 商業科 Ⅱ型
単位数	3	教科書	Vision Quest English Logic and Expression Ⅱ Ace(啓林館)		
副教材等	Vision Quest総合英語 Ultimate 2nd Edition、 New Vision Quest English Grammar 47 WORKBOOK、英単語ターゲット1900、Next Stage				

学習の目標	1 英語で表現しようとする、コミュニケーションへの積極的な態度を養います。 2 より高度な表現や構文・文法を習得し、英文の内容や相手の意図を正しく理解し、自分の考えを効果的に表現できる英語力を身に付けます。 3 CEFRのB1以上の取得を目標とします。
学習の方法	・授業は、教科書の練習問題などを解答しておくことが前提になります。授業中の言語活動に参加できるように、自分の力で解答する習慣を継続しましょう。 ・英語を読んだり聞いたりしたときや自分の意見を表現するときに、分からないことがあれば、辞書や文法書を利用して、自分で調べてみるようにしましょう。

学期	単元	学習活動とねらい
1 学期	Lesson 1 What is your future goal? Lesson 2 What school events do you have? Lesson 3 Who is the best athlete? Lesson 4 Is social media safe?	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の理想の仕事について書かれた文章を読んで、適切な主語の使い方を理解します。 ・学校で新しい友達を作る方法について書かれた文書を読んで、適切な動詞の使い分けについて理解します。 ・スポーツの歴史について書かれた文章を読んで、時を表す表現の概念を理解します。 ・ソーシャルメディアの使用で気を付けるべき点について書かれた文章を読んで、様々な助動詞の概念と文の構造を理解します。
2 学期	Lesson 5 How does overusing energy affect us? Lesson 6 What are some culture differences? Lesson 7 Do all Japanese people need to speak English? Lesson 8 Is Japan open enough? Lesson 9 What if you were rich? Lesson 10 How might AI affect our lives?	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーの使い過ぎについて書かれた文章を読んで、名詞を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解します。 ・異文化理解の重要性について書かれた文章を読んで、関係詞によって情報が追加された文の構造を理解します。 ・第二か国語や外国語としての英語について書かれた文章を読んで、語句や文を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解します。 ・日本の社会の問題点について書かれた文章を読んで、直接話法と間接話法を用いて表した文の構造を理解します。 ・もし億万長者になったら、何をするかについて書かれた文章を読んで、仮定の概念と文の構造を理解します。 ・AIと共存する方法について書かれた文章を読んで、数量を表す表現の概念と文の構造を理解します。
3 学期	Lesson 11 What is a healthy life? Lesson 12 What is important when we sell chocolate?	<ul style="list-style-type: none"> ・健康とストレスについて書かれた文章を読んで、比較を表す表現を用いた文の構造を理解します。 ・商品の販売について書かれた文章を読んで、否定を表す表現を用いた文の構造を理解します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	定期考査、パフォーマンステスト、小テスト	定期考査、パフォーマンステスト、レポート課題	言語活動への参加状況、パフォーマンステスト

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和6年度 シラバス

教科	商業	科目	課題研究	学年 学科 類型	3年 商業科 II型
単位数	2	教科書			
副教材等					

学習の目標	1 入試に対応できる小論文作成や面接の技術を習得し、問題解決の能力を身に付けます。 2 入試のための資料や情報の収集、模擬面接練習やテーマ別演習を通して、思考力や表現力、自発的・創造的な学習態度を身に付けます。
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・経済に関する書籍や用語辞典等を使い、情報収集を行います。 ・大学の過去問題に触れることで入試に対応できる小論文の作成技術を学びます。 ・面接試験（ディスカッション含む）との関係も深いので面接練習も同時に行います。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学 期	1 小論文の書き方 2 様々な出題形式 3 志望理由書 4 自己PR文	<ul style="list-style-type: none"> ・良い小論文を書くためには、課題の主旨を正確につかむことが大切であることを理解します。また、論理的な意見や理由付けの重要性などを学びます。さらに、要約についても学習します。 ・多様化する推薦入試では、小論文の出題形式も様々です。ここでは、例題を基に、テーマ型、課題文型、データ型、融合型、教科型などの様々な出題形式について学びます。 ・志望理由書で押さえておきたい4つのポイント（将来の目標、動機、過程、志望先とのマッチング）を理解した上で、自分史を作成し、その後、志望理由書を考えていきます。 ・自己PRで押さえておきたい4つのポイント（長所、理由、長所を得た経緯、将来への抱負）を理解した上で、ワークシートを完成させた後、自己PR文を完成させていきます。
2 学 期	5 面接対策 6 模擬面接	<ul style="list-style-type: none"> ・面接の質問内容には必ず面接官の意図があります。質問の意図を考え、適切な回答ができるように準備をし、対策を練っていきます。 ・面接対策を踏まえ、実際に模擬面接を行っていきます。面接の形式は受験校によって様々であるが、各大学、専門学校に合わせた形式（個別面接、グループ面接、集団討論）で模擬面接を行い、実践力を身に付けていきます。
3 学 期	7 テーマ別演習	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習してきたことをテーマ別に課題を設定し、反復学習をします。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準	商業の各分野について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評 価 方 法	・課題、実習レポート、発表、作品、ポートフォリオ評価	・課題、実習レポート、発表、作品、ポートフォリオ評価	・行動の観察、実習レポート、発表、ポートフォリオ評価

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和6年度 シラバス

教科	商業	科目	グローバル経済	学年 学科 類型	3年 商業科 II型
単位数	2	教科書	グローバル経済(実教出版)		
副教材等	グローバル経済問題集				

学習の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 経済のグローバル化について実務に即して体系的・系統的に理解するように学習します。 2 経済のグローバル化への対応に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養います。 3 ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、グローバル化する経済社会におけるビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・経済のグローバル化について実務に即して体系的・系統的に理解するように学習します。 ・経済のグローバル化への対応に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養います。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1章 グローバル化が進展する社会 第2章 経営のグローバル化	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化と国際化の違いについて理解し、グローバル化する現代の社会について学びます。 ・グローバル経営を進めるにあたって求められる企業の社会責任について学びます。 ・多国籍企業のグローバル経営について理解し、企業がグローバル化する理由について学びます。 ・金融、企業、社会の多様性とグローバル化の関連について、具体的に見ていきます。 ・グローバル化によってどのような経済発展に結びつくのかを学びます。
2 学期	第3章 経済のグローバル化 第4章 市場と経済	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化と国際化の違いについて理解し、グローバル化する現代の社会について学びます。 ・グローバル経営を進めるにあたって求められる企業の社会責任について学びます。 ・多国籍企業のグローバル経営について理解し、企業がグローバル化する理由について学びます。 ・金融、企業、社会の多様性とグローバル化の関連について、具体的に見ていきます。 ・グローバル化によってどのような経済発展に結びつくのかを学びます。 ・経済のグローバル化における人材の状況を外国人労働者や賃金の観点を含めて学びます。
3 学期		<ul style="list-style-type: none"> ・需要と供給に着目した市場に関する理論について理解し、現実の社会における市場の役割と課題について学びます。 ・GDPについて理解し、マクロ的な視点から経済成長について学びます。 ・景気環境のしくみについて理解し、その弊害について考察し学びます。 ・経済政策における政府の役割について学び、現状と問題点について理解します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	企業における経済のグローバル化への対応など実務に関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ経済に関する知識を身に付けている。	経済のグローバル化をはじめとした様々な知識などを活用し、企業における経済のグローバル化への対応に関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響をふまえ、経済社会の動向、経済に関する倫理やデータ、ビジネスに関する成功事例や改善する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら経済について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者の信頼関係を構築して積極的に関わり、経済社会の動向を踏まえて経済のグローバル化に対応板ビジネスの展開に責任をもって取り組んでいる。
評 価 方 法	課題プリント、ノート、小テスト、確認テスト、ワークシート、定期考査	課題プリント、ノート、小テスト、確認テスト、ワークシート、定期考査	課題プリント、ノート、小テスト、ワークシート、模擬問題

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和6年度 シラバス

教科	商業科	科目	財務会計Ⅱ	学年 学科 類型	3年 商業科Ⅱ型
単位数	2	教科書	財務会計Ⅱ (東法出版)		
副教材等	全商1級会計 完全段階式標準検定簿記問題集 (東京法令出版)				

学習の目標	<p>1 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにします。</p> <p>2 企業会計に関する法規と基準および会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠にもとづいて創造的に課題に対応するとともに、会計の側面から企業および企業の経営判断を分析する力を養います。</p> <p>3 会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、国際的な会計基準を踏まえた適切な会計情報の提供と効果的な活用による主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。</p>
学習の方法	<p>・財務会計に関して実務に即して体系的・系統的な知識や技術を身に付けますが、その学習内容は「財務会計Ⅰ」よりもさらに高度になるため、教科書や問題集を活用し、常に予習と復習を行うことを心掛けてください。</p> <p>・問題演習については、間違えたところを何回も復習し、疑問点や不明な点は積極的に質問して確実に解けるようにしてください。</p>

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	<p>第Ⅰ編 財務会計の基本概念と会計基準</p> <p>第1章 財務諸表の作成と表示の考え方</p> <p>第2章 資産負債アプローチと収益費用アプローチ</p> <p>第3章 会計基準の国際的統合</p> <p>第Ⅱ編 会計処理</p> <p>第1章 貨幣の時間価値</p> <p>第2章 金融商品・外貨建取引</p> <p>第3章 有形固定資産</p> <p>第4章 無形固定資産</p> <p>第5章 繰延資産</p> <p>第6章 固定負債</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業会計の意義と領域、会計公準、財務報告の目的について理解します。 ・「簿記」や「財務会計Ⅰ」で学習した勘定科目が、財務諸表の構成要素の定義を満たしているかについて主体的に考察し、表現します。 ・資産負債アプローチと収益費用アプローチのそれぞれの考え方や、包括利益と純利益の関係について理解します。 ・日本の会計基準および国際会計基準の概要と、会計基準の国際的な統合の動きについて理解します。 ・割引計算をおこなう前提となる、貨幣の時間価値の概念について理解します。 ・債権、貸倒引当金の見積りおよび有価証券など、金融資産に関する会計処理について理解します。 ・先物取引、スワップ取引、オプション取引およびヘッジ会計など、デリバティブ取引に関する会計処理について理解します。 ・外国通貨、外貨建金銭債権債務、外貨建有価証券および替予約など、外貨建取引に関する会計処理について理解します。 ・固定資産の減損会計、リース会計、投資不動産、総合償却、圧縮帳簿および法人税法上の減価償却など、有形固定資産に関する会計処理について理解します。 ・研究開発費、市場販売目的および自社利用のソフトウェアなど、無形固定資産に関する会計処理について理解します。 ・繰延資産の概要と、その会計処理について理解します。 ・社債、退職給付引当金および資産除去債務など、固定負債に関する会計処理について理解します。
2 学期	<p>第Ⅱ編 会計処理</p> <p>第7章 純資産</p> <p>第8章 収益と費用</p> <p>第9章 税効果会計</p> <p>第Ⅲ編 キャッシュ・フローに関する財務諸表</p> <p>第1章 キャッシュ・フロー計算書</p> <p>第Ⅳ編 企業集団の会計</p> <p>第1章 企業結合会計</p> <p>第2章 連結財務諸表の作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・純資産の分類、ストック・オプション、分配可能額および株主資本の数変動など、純資産に関する会計処理について理解します。 ・委託販売、受託販売、未着品売買、試用販売および工事契約などの会計処理について理解します。 ・税効果会計の意義と、棚卸資産の評価損、未払事業税、圧縮帳簿および繰延ヘッジ損益に関する税効果会計の会計処理について理解します。 ・ヘッジ対象及びヘッジ手段の両方に税効果会計を適用する取引の仕訳をおこなう問題に取り組みます。 ・資金調達の方法にはどのようなものがあるかについて主体的に考察し、表現します。 ・キャッシュ・フロー計算書の意義、必要性、表示区分とその作成方法について理解し、資料をもとに直接法および間接法によるキャッシュ・フロー計算書を作成する学習活動に取り組みます。 ・EDINETを利用して実際の企業のキャッシュ・フロー計算書を入手し、そこから読み取れることを自分の言葉で表現する学習活動に取り組みます。 ・貸付金が投資C/F、借入金財務C/Fに記載される理由について主体的に考察し、表現します。 ・吸収合併、株式交換および株式移転など、企業結合会計に関する会計処理について理解します。 ・連結財務諸表の意義と目的、連結の範囲、連結財務諸表の種類について理解し、資料をもとに支配獲得日の連結B/Sや、連結第1年度末の連結F/S(資本連結のみ)を作成する学習活動に取り組みます。 ・資料をもとに連結第1年度末の連結F/S(成果連結を含む)を作成する学習活動に取り組みます。 ・子会社株式の段階取得や追加取得、一部売却などの会計処理について理解します。 ・連結税効果会計の意義と、その会計処理について理解します。
3 学期	<p>第Ⅳ編 企業集団の会計</p> <p>第2章 連結財務諸表の作成</p> <p>第3章 持分法</p> <p>第Ⅴ編 財務諸表分析</p> <p>第1章 企業価値の評価</p> <p>第2章 株価を用いた財務諸表分析</p> <p>第3章 連結財務諸表分析</p> <p>第Ⅵ編 監査と職業会計人</p> <p>第1章 会計責任と監査の概要</p> <p>第2章 職業会計人の倫理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連結精算表、連結包括利益計算書(連結損益及び包括利益計算書)、連結キャッシュ・フロー計算書の概要や、連結財務諸表の表示およびそれらの関係性について理解します。 ・持分法の意義、適用範囲および持分法の基礎的な会計処理について理解します。 ・合併・株式交換・株式移転などの企業結合がおこなわれる理由について主体的に考察し、表現します。 ・企業価値の概要と企業価値を評価することの意義、およびキャッシュ・フロー分析などを活用した企業価値の評価方法について理解します。 ・株価収益率、株価純資産倍率、株価売上高倍率および株価キャッシュ・フロー倍率などの株価を用いた代表的な指標を利用して、財務諸表を分析する方法について理解します。 ・連結情報を分類・整理し、企業グループ全体の業績と連結経営を評価する方法や四半期報告書について理解し、資料をもとに連結財務諸表分析をおこなう事例研究に取り組みます。 ・日本の監査制度の概要とその重要性、監査の実施方法などについて理解します。 ・職業会計人(公認会計士および税理士)の役割と倫理について理解します。

評価の観点と方法

	① 知識・技術	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	財務会計に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連付けられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身に付いている。	財務会計をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用し、企業会計に関する法規と基準および会計処理の方法の妥当性と実務に適用することにもなる課題を見いだすとともに、会計情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、財務会計に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力、財務指標を組み合わせて企業の実態を総合的に分析する力および経営判断が企業に及ぼす影響を会計的側面から分析する力が身に付いている。	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら財務会計について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、国際的な会計基準を踏まえた企業集団の会計処理などによる会計情報の提供と効果的な活用による責任をもって取り組む態度が身に付いている。
評価 方 法	・定期考査、課題プリント、小テスト	・定期考査、小テスト、パフォーマンス評価	・行動の観察、発表、課題、パフォーマンス評価

(備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和6年度 シラバス

教科	商業	科目	ネットワーク活用	学年	学科	類型	3年 情報ビジネス科 II型
単位数	3	教科書	ネットワーク活用（実教出版）				
副教材等							

学習の目標	1 ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにします。 2 ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養います。 3 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。
学習の方法	この授業では、情報ビジネス科で2年間学んだ知識をもとに、インターネットや情報セキュリティについて深く学びます。また、電子商取引の概要やWebページの制作についての実習も行うことで、より実践的な活動も行います。定期考査だけでなく毎日の授業にも集中して取り組みましょう。

学期	単元	学習活動とねらい
1 学期	1章 情報通信技術の進歩とビジネス 1節 ICTにより創造される新しいビジネス 2節 個人情報と知的財産の保護 3節 関連法規とガイドライン 2章 情報コンテンツの制作 1節 図形と静止画 2節 音声と動画 3章 企業情報の発信とWebデザイン 1節 Webページの制作とデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信技術の進歩に伴いビジネスの形態や組織内におけるビジネスの進め方が変化していることを学び、情報通信ネットワークをビジネスに活用することの重要性を学びます。 ・図形と静止画の情報コンテンツについて、利用方法や表現方法などの基礎的な知識を理解するとともに、それらを作成・編集するための基本的な技術を学習します。 ・Webページの制作とデザインについて理解するとともに、一般的なWebページ制作手順を理解し、Webページ制作について必要な基本的な知識と技術を学習します。
2 学期	3章 企業情報の発信とWebデザイン 2節 Webページ制作の基礎 3節 Webページ制作の応用 4章 インターネットと情報セキュリティ 1節 インターネットのしくみ 2節 ハードウェアとソフトウェアの導入 3節 情報セキュリティの確保 5章 電子商取引とビジネス 1節 ネットワークを用いたビジネスと電子決済	<ul style="list-style-type: none"> ・タグの直接入力による基本的なWebページ制作のための知識と技術を学習します。 ・CSSとJavaScriptを用いて、目的に応じた適切なWebページを制作する知識と技術を学びます。 ・インターネットの仕組み、ビジネスにおいてインターネットを活用する利点及びインターネットサービスプロバイダの役割と業務について学習します。 ・ビジネスにおいてインターネットを活用する際の情報セキュリティの確保について、企業における具体的な事例を学びます。
3 学期	5章 電子商取引とビジネス 2節 電子商取引サイトの開店準備 3節 Webページ制作と集客方法 4節 ビジネスの創造	<ul style="list-style-type: none"> ・電子商取引の意義や役割について学びます。 ・企業間取引、企業対消費者間の商取引について学習し、情報通信ネットワークを活用したビジネスについて学習します。 ・代金決済方法について電子的データの交換を行う電子決済のしくみを学習します。 ・電子商取引サイト開業に必要な手順を理解させるとともに、店舗運営を行うための基礎的な知識を学習します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価 方 法	課題プリント、小テスト、実習、パフォーマンス評価、定期考査	行動の観察、課題プリント、小テスト、パフォーマンス評価、定期考査	行動の観察、実習、課題プリント

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。